



### 海外進学のかき付け

異なる価値観や文化に憧れがあった。実際に欧米の大学で学ぶ日本人学生の話を聞いて魅力を感じた



### 今後の目標

卒業後の進路は考え中。2年生から国際司法を専攻し、難民の人権やジェンダーの問題などを勉強したい



### 新型コロナの影響

最初の授業からオンラインで、英語で議論をするのはとまどいもあり、授業に追いつくのが大変だった。生活面では一時夜間の外出禁止などの制限があったが、慣れた。政府のコロナ対策は、日本大使館のサイトを見たり、オランダ人の学生に聞いた



### 海外大進学の情報集め

現地の海外大生が高校生の海外大進学を支援する団体「留学フェロウシップ(https://ryu-fellow.org/)」の活動に参加。この団体で出会った大学生や高校生たちと大学選びや受験対策を情報交換した



1575年設立のオランダ最古の国立大学。上野さんが通うハーグのキャンパスは3年制で、入学時に専攻を決めないういバカルアーツが特徴

オランダ・ライデン大

### オランダへ

どんな勉強をどんな環境でしたいのか、国内にとらわれず進路を考えてみて

## 北海道から海外大進学

### 台湾へ

海外大学進学だけでなく、やりたいことは言葉にして周囲に表明してみる

### 海外進学のかき付け

もともと米国などへの留学を目指していたが中国語を学ぶ意欲が大きくなった。海外で自分を追い込んで勉強したい思いもあった



### 大学生活

基本の授業は、英語の教科書を使った中国語の講義で、慣れない間は大変だった。台湾人や他国の留学生との価値観などの違いに悩んだりもしたが大切な友達もできた



### 新型コロナの影響

3年生の途中で授業がオンラインに切り替わった。政府のコロナ対策は台湾人の友人に聞いて情報を集め、不安はあまりなかった。感染者数が少なかった4月には、台湾内を旅行した



### 海外大進学の情報集め

高校3年の夏休みに、文部科学省など官民で留学を支援する「トビタテ留学JAPAN(https://tobitate.mext.go.jp/)」を活用して台湾に語学留学。留学で知り合った台湾人たちに大学の現地での評判を聞き、参考にした



台湾・輔仁大

1925年設立のカトリック系私立大学。教地内には病院やスーパー、郵便局もある。専攻大(札幌)の留学協定校でもある

### 海外大進学のスケジュール例

「トビタテ留学JAPAN」のサイトなどを基に作成。新型コロナウイルスの感染拡大で変更になる可能性がある



米米国の大学進学に必要な大学進学適性試験(SAT)や英語能力試験TOEFL(トール)などの試験を受ける

## 大学進学 海外も選択肢

### 道内高出身者「どこで何学びたいか考えて」

大学進学では国内大学のほか、海外大学に入学する選択肢がある。海外生活の経験がなかったり周囲に目指す人がいなかったりしても、自分で情報収集するなどして希望を実現した人もいる。海外大学に進学した道内高校出身者は「関心がある人は、自分に合った国や学び方など国内大学以外の進路も考えてみては」とアドバイスする。

### 異なる価値観に憧れ

オランダのライデン大1年生の上野笑瑠さん(20)＝札幌南高卒＝は昨年9月、同大に入学した。上野さんは「英語で学びたいと思った。国内外の大学をいろいろ比べ、海外の大学が自分に合っていると思った」と話す。

海外生活の経験はなかったが子供のころから母親に英語を教わり、英語は得意科目で好きだった。異なる価値観や文化に触れたいと高校1年時に海外留学説明会に参加。留学支援団体が主催する本州でのサマーキ

ャンプにも参加し、海外大学進学を目指す首都圏の高校生や海外大学の学生に会い刺激を受けた。

高校卒業時に米国の大学に合格したが、専攻などに迷いがあり入学を辞退。事業所でインターンをしたリしながら1年間のギャップイヤー(休学期間)を過ごし、自分を見つめ直した。

その中で、社会の中で生きづらさを感じる人への支援や人間の多様性、ジェンダーなどについて学びたいという思いが強まり、授業は英語で人権や法律が学べ、国際司法裁判所があるハーグにキャンパスがあるライ

デン大を志望した。上野さんは1年時、リベラルアーツ(一般教養)を受講。2年生からの専攻は国際司法に決めた。「寮生活にも慣れ、友達もできて楽しい。この先の進路もじっくり考えたい」。海外大学進学を検討する人には「自分がどんな人間で本当にやりたいことは何か。自己分析して言語化できることが大切。海外大学出願時に出すエッセイを書く時にも必要」とアドバイスする。

### 留学生から情報収集

台湾の輔仁大を6月に卒業した

武藤悠海さん(23)＝札幌国際情報高卒＝は中学2年、高校1年時に米国へのホームステイや交換留学を経験した。ホームステイ先の家族が中国系だったことから中国語に興味を持ち、留学を目指して中国語の勉強を始めた。

北大の学園祭で台湾からの留学生に話しかけるなどして現地の大学の情報を収集。心配する両親には、パワーポイントを使って大学の魅力や学費を「プレゼンテーション」して説明した。

大学では企業マネジメントなどを履修。ドリンクホルダーの商品を学生が企画・販売するなど実践型の授業も体験した。新型コロナの感染拡大でオンライン授業も多かったが、充実した大学生活を過ごした。

9月から首都圏の製薬会社でアジアでの販路拡大に携わる武藤さんは海外大学への進学について「価値観の違いに悩んだりもしたが、気の合う友達もできてとてもいい経験になった。大学進学を考える人は、自分がどの国でどんなことを学びたいのか一度ゆっくり考えてみては」と話す。

### 「国際バカロレア」注目集める

海外大学入学の受験方式は国や大学で異なる。出願時に大学進学適性試験(SAT)などのスコアが一定以上必要だったり、自己アピールのエッセイなど書類提出のみの大学も多い。

国内の高校卒業までの教育課程が、海外大学の出願条件を満たさないこともある。SATの点数が高いことなどで条件を免除されることもあるが、国内の学校で学びながら海外の大学の入学資格が得られる教育プログラム「国際バカロレア(IB)」が注目されている。

IBは多様な文化を尊重し学びへの意欲が高い若者を育てるため、スイスのジュネーブに本部を置く国際バカロレア機構が生徒の年齢に応じて提供している教育プログラム。世界150以上の国・地域、計約5500校で活用されている。教育課程は、11～16歳対象の「ミドルイヤー

プログラム(MYP)」、16～19歳対象の「ディプロマプログラム(DP)」など4種類ある。

道内では、札幌開成中等教育学校(札幌)が2017年にMYP、18年にDPの認定を受けた。札幌日本大学高(北広島)はDPの年内認定を目指している。

IBの特徴の一つは、自ら課題を設定して考え、答えを出す学習方法を重視していること。来春から実施する新しい学習指導要領の基本的な考えにも沿う。札幌開成の西村里史教頭は「自分で調べ考え、他者と協力して学び続ける姿勢を養える。海外大進学のためだけでなく、人生のいろいろな場面が必要な力だ」と話す。

札幌大の浦昌利副校長は「生徒たちが多様な思考に触れ、進学の選択肢を広げる機会としたい。国際社会で活躍する人材を送り出したい」と話す。